

『論語』と儒学

字根 考案

■はじめに (孔子の生涯と『論語』)

●世界の四大聖人

孔子(儒学・儒教)、イエス(キリスト教)、釈迦(仏教)
マホメット(イスラム教) 又はソクラテス(ギリシア哲学)

●四書・五經 (儒家のテキスト)

『論語』・『孟子』・『大学』・『中庸』
『易經』・『書經(尚書)』・『詩經』・『礼記』・『春秋』

●「子曰わと、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」と (里仁第四)

(「これは大胆な言葉である。だが強い言葉である。道
を聞くと、人間の生きる道、自分が大往生をとられる道
を知ること。本来に道を聞き得たものは、死を恐れな
いはず。人は自分の一つの生命に執着しなうはーなり」
—— 武者小路実篤『論語私感』より)

「子曰く、故きを温めて新しきを知れば、以て師たるべし」と (孝政第二)
人類文化の発展は「温故知新」の精神による

「天下悉く信じて多しとなさず。一人これに信ずるのみにて
少しとなさず」 (王 陽明)

「一燈照隅・萬燈照國」

(安岡正篤) ※師友協会

貧者の一灯

文宣王行狀記
文徵明

☆ 絵をぬり絵にしよう!

魯襄公二十二年庚戌十月二十一日、唐子孔子誕生之夜、是夕有二龍繞室、五老降庭、五老者五星之精也。



★文字をなぞる書きまじょうの。

子三、温故而知新、
可以為師矣。

子曰く、故きを温めて
新しきを知れば、
もつて師たるべし。

子曰、温故而知新、
可以為師矣。

子曰く、故ふるきを温あためて
新しきを知れば、
もつて師たるべし。

The Master said, He who by reanimating
the Old can gain knowledge of the New is fit
to be a teacher.

何を学ぶべきか
これは「温故知新」の語源である。
古いことから、新しい知識や見解を得ることができ
る。歴史に学ぶことはたくさん
あるはずだ。
孔子も歴史に大きな関心をは
らっていたことがよくわかる。